

(事後評価)

## WASEDA-EDGE 人材育成プログラム～共創館イノベーション・エコシステムの構築～

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：早稲田大学（総括責任者：橋本 周司）

### 採択プログラムの概要

我が国の成長戦略の実現に寄与するため、全学を挙げて文理融合により社会デザイン工房『共創館』を設置し、事業化マインドを持つ人材の育成、持続的イノベーション・エコシステムハブ形成に貢献する。

共創館では、若手研究者や大学院生等に対し、

- ①起業やビジネスの基礎知識や手法等の実践的講義、インターンシップ
- ②デザイン思考やワークデザインなどの価値共創デザイン教育
- ③NSF I-Corps の事業化促進プログラムを原型とする顧客開発プログラム

の人材育成プログラムを提供する。これらを通じて、鋭利な発想、体系的な方法論により、グローバル展開可能な新規事業を創出する EDGE 人材を養成する。またエコシステムハブ形成のため、VC やコンサルティング会社、海外大学等との連携を促進する。

上記取組により、新規事業及びその担い手を多数創出して我が国の経済活性化に貢献し、他大学・研究機関にも波及させ国全体のイノベーション創出を加速する。

### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	成果	計画・手法の 妥当性	補助事業期間 終了後における 取組の継続性 ・発展性
S	S	S	a	S

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

### (2) 評価コメント

大学本部が主導してよく設計された計画に則って、学生・若手研究者のモチベーション喚起、基本知識の学習、価値創出のためのアイデア発想法、課題発見段階におけるフィールドワーク、ビジネス設計のフレームワークや制約の学習、ビジネスモデルの仮説検証といった学習プロセスが実施されており、「早大起業支援パッケージ」と相まって大きな成果を上げている。イノベーション創出の場として大学が整備した「共創館」が機能して、多くの関係者を巻き込んでおり、イノベーション・エコシステムを広げている。学内に閉じることなく他大学への普及までも見込んだ、大規模大学として相応しい行動であり、多数の受講者や起業、新規事業及びビジネス・クリエーションコースの全学展開など、目覚ましい成果を上げており高く評価できる。

・**目標達成度**：整備されたプログラム群のみならず、多様な分野の学内の教員の協力、外部人材の協力、適切な受講者募集等により、受講者数 2222 名、EDGE 人材 278 名を達成しており、所期の目標を上回っているものと高く評価できる。採択時の留意事項に記載の幹事校の共通基盤事業への協力についても EDGE 採択校の関連教員向けの講演・研修を実施するなど適切に対応しており高く評価できる。

・**成果**：カリキュラムは人材の発掘や起業家マインドを醸成する「アントレプレヌールシップ教育プログラム」と「価値共創デザイン教育プログラム」、および発掘・養成した人材に対する「ビジネスモデル仮説検証プログラム」から構成されており、内容の独自性と充実が際立っている。多くの民間企業、関係機関、国内外大学等と連携して実施し、社会人および他の大学からの受講者も多数参加するなど、外部に開かれたプログラムとなっており、高く評価できる。大学が整備した「共創館」がインタラクティブを促進する場として効果を発揮している。起業実績が 8 件あり、ベンチャーキャピタルからの資金調達に成功した事例もあることは特筆に値する。

・**計画・手法の妥当性**：副総長を総括責任者として、大学本部主導で、部局・関係組織・事務組織を統括して事業を推進している。運営委員会、実行委員会の他、外部の専門家からなる外部評価委員会を組織して PDCA サイクルによる改善が行われている点は評価できる。本事業に選定されていない大学への広報・情報発信、それによる幅広い地域へのノウハウの共有の実現など、他大学に好影響を与えており、大学のブランディング強化にも貢献している。

・**補助事業期間終了後における取組の継続性・発展性**：開発した教育プログラムは補助事業期間終了後にグローバルエデュケーションセンターに「ビジネス・クリエーションコース」として体系化され、博士後期課程における単位制での正規科目化が決まっており、全学教育組織にて展開されることは高く評価できる。資金計画については、外部機関から資金提供を受けており、補助事業期間終了後も人材育成プログラムの取組を継続できる体制が確立されており、高いレベルで継続性・発展性が期待できる。